

令和7年度 第1回春日市教育委員会定例会 議事録

1 開会及び閉会に関する事項

① 日 時 令和7年4月18日（金）

開会 午前9時00分

閉会 午前9時36分

② 場 所 春日市役所大会議室

2 出席委員の氏名

教 育 長	扇 弘 行
委 員	安 本 誠 一
委 員	黒 岩 眞理子
委 員	宮 崎 泰三郎
委 員	足 達 好 子

3 委員を除き会議に出席した者の職氏名

教 育 部 長	武 末 竜 久
教育総務課長	濱 田 佳寿美
学校教育課長	山 下 江 利
地域教育課長	萩 原 裕 之

教育総務課長補佐	小 嶋 健 朗
教育総務課主査	松 尾 由 香

4 議事の概要

別 紙

午前9時 開会

【第1 会議録署名委員の指名】

○扇教育長

おはようございます。時間になりましたので、第1回の教育委員会定例会を始めます。
それでは、まず初めに、会議録署名委員の指名を行います。
足立委員を指名いたします、よろしくお願いします。

【第2 報告事項】

本日議案の付議事項はございません。
報告事項から入っていきます。

(1)教育長報告

まず、教育長報告です。

先日4月14日に県庁で、合同で県市町村教育委員会、教育長会議が1時半から行われました。県教委が関わってる説明そのものは1時間。話があったんですが、新しいものは特に出て参りませんでした。

ただ不登校の問題については全国的に、福岡県においても、やはり増加していると、大きな課題であるという説明がございましたけど、具体的にじゃあどうするんだという案はまだ提示は出ておりません。

あと学力についても、小学校については全国平均を上回っている、中学校については国語は平均だけでも数学については、若干下回ってると。

地区によってその学力が平均以上とか平均以下とかいう格差はあります。

これについては配置などで、今年度も努力をして参りたいという話でございました。

あとワネルズの話があったりとかですね、書いてある資料、配られている資料をずっと何ページ何ページ何ページ…と。はっきり言って熱意が伝わらなかったというか、こうしたいああしたい、今年はこうやっていくんだという意気込みが感じられなかったなあというのが率直な意見でした。

事務所から挨拶に見えたときの方が、かえってものすごく言いやすかった。先日、一番大きな課題は中学3年生の1月から3月をどう過ごすんだと。これについては県教育委員会として、提示していただきたいという話までしたんです。

もうすでに目標達成した生徒と、今からラストチャレンジャーになる子供たちの心理的な面、それから教育課程の維持、子供たちにとって一番大事な学習活動なり特別活動、どう組織するのか、中学校にとっては大変な問題だということについて、問題提起をしておりますのでおそらく、県教委が事務所単位に説明に年2回来るはずですよ。

そのときも答えがでなかったら私の方がまた質問してみたいと思う。どう考えてるんだと。

不登校以上の問題がありますよというふうなことを言おうかなと思っています。

報告はそれだけです。

○安本教育委員

同じ問題が高校生でもあります。11月でも推薦で決まって、同じ状態です。そのあとどうするかと。そのあと、私立を受けるのも行ったりとかするんですけど、私立の大学ちょっと早くても12月には決まってしまうと、センター試験があって、今共通テストかな。そのあとに国立を目指す人たちは、2月ぐらいに決まると。

問題なのは、その11月で決まってしまう推薦の人たちがほぼ半分ぐらいです。

うちの大学でやってるのが入学前教育というもので、業者を使っています。ベネッセというところを使って、早めに決まった学生に教材を送って、いわゆる医療系なので、医療現場の化学ですね、数学、あと医療英語とか、そういう教材をベネッセが持ってるんですね。そういうので業者使ってやってるってのが1つありますね。

それが、今先生がおっしゃってる中学校で使えるかどうかちょっとわからないですけど、保護者負担で2万円ぐらいかな。2万前後ぐらいで3科目ぐらいやれるっていうのをやっています。

○扇教育長

学校教育課長、聞き慣れた言葉が今出てきましたけど。

○山下学校教育課長

高校によって、合格した子に事前にかんりの宿題を出してるっていうことで、その学校によって、量のばらつきはあるみたいですけども、こんなにやらないといけないのというようなすごい量が出てるっていうのを。

○安本教育委員

こっちはもう10何年やってます。最初は教員がやってたんですよ。教員の負担が大きくて、僕は委員やってたんで、調べたらベネッセがやってるっていうのを知って、来てもらって、それで10年ちょっとやってますね。

毎年、それも任意制です。希望者だけだけど、90%以上は申し込みますね。入ってから遅れてというのは不安感があるみたいで、みんなやってるから、それでつられてやる。

高大連携ですよ。高校と大学の連携っていうのが一時期流行ったので、高校回ってそんな話をして、うちの大学ではこういうことやらせてるから、推薦合格した子供たちのところを回って、高校の進路の先生に説明して、だからある意味中高連携でそういうのが福岡県狭いですからね。僕とかだったら、九州、山口広島まで行って説明してますね。

そういう効果がもし欲しければ、いくらでも持ってます。蓄積はある。

福岡県の県教委はどこまで考えてるかっていうのがちょっとわからないですが、熱意が感じられない、そんな感じなんだろうなと思います。

○扇教育長

義務段階でしたら、春日市は今年から、タブレットの中にベネッセのドリルを入れてますね。で、20分ほど黒板に書いたのを教師が説明した後に、その内容の確認プリントがあって、80%を超えないと次に行けない。不合格だともう1回勉強し直して。

ですからできる子はどんどん先に行ける、行けない子はもうずっと前に戻って前の学年からやるっていうのを入れている。

いずれにしてもその学校間を結ぶ間の教育課程ですね、その辺りは課題ですよ。

1つだけ、今年感激したんですけど、入学式にですね、ある春日市内の中学校の入学式で、生徒会長が歓迎の言葉を述べられた。初めて聞き惚れました、すごいなあと。

よく「いろいろ大会があります、部活動があります、心配しないでいいですから」というふうにずっと言われるんだけど、中学校の男子生徒会長がコンパクトに話していて。それは校長会でもいいました。これはすごいと。

それが1つと、東福岡高校の入学式で代表の誓いの言葉を春日市の卒業生が、この子がまたインターネットにも載ってるぐらいで鮮やかで。実はこの子入学説明会后、お母さんと一緒に行って、学校施設のよさで男女共学になるっていうことで、この学校がいいと。お父さんは、あなたはこっちがいいんじゃないと言ったが、いや、私はこっちがいいってことで、父が根負けして、そっちに進んだと。近いことを述べた。その内容も素晴らしかったと聞いています。

それともう1つ、佐賀県なんですけども、早稲田のあれがありますよね。川角。そこをほぼトップで取ってこっちが家に近いからってこっちに行ってる。これも春日市から。この子も誓いの言葉の原稿をもらいましたけど、もうコンパクト。春日市でそういう子たちが育ってきたんだなあと、今まであまり聞いたことなかったんですけど。ですから校長会で言いました。中学生の在校生は歓迎の言葉、高校では誓いの言葉を述べることもたちはこんなすばらしい子が春日市から出ていると。

来年度の卒業式では、答辞の中に、大会とか修学旅行とか部活動っていうのがあってもいいんだけど、誰々先生の教科のこの授業がすごく忘れられませんっていうのをぜひ、どこかの

学校で入れて欲しいと、そういう授業をしなければ絶対それ入ってこないと、中学生に負けるんじゃないかという話をしたんです。

ですので、来年どこかで、もし卒業式で、そういうのが入ったらすぐ報告をよろしく願います。楽しみにしたいな。なかったらなかったでやかましく言います。私から報告は以上です。

教育委員さんから報告ございませんか。

(2) 教育委員

○黒岩教育委員

小学校の入学式で、告示を読んだんですね。

私、中学校の卒業式の告示も一通り目通して、1回読む練習して、中学校はそのまま大体よかったんですよ。

小学校もスーッと読んで、別に引っかけられないなと思って、そのまま行ったんですけどね。

小学校1年っていうことを完全に忘れてて、文書だけ見てて、小学生を目の前にしたときに、まだ幼稚園から上がったばかりでしょう。ちょっと言い方を変えながら言ったんですけど、そういう意識がちょっと私ももう10年してないから飛んでてですね、所々難しい言葉があるなと思いましたそれとね、タブレットのことを最後に、言うように書いてあったんですよ。あんな、小学生1年生に言わなきゃいけないんだろうかと思いつつも、そこに来たら読みましたけど、あれいらんんじゃないかなってちょっと思いました。こっちも悪かったけど、内容もちょうとやさしく、お願いします。

○扇教育長

そうですね。告示行為を教育委員会がするまでに大体入場から20分経たないぐらいですけど、もう集中力ないですね。こどもたちは足をプラプラさせて、そして我々が告示読んだらもう、何を聞いてるかわかんない状態になってるんで、今言われたように、少し告示行為そのものをきちっと、いわゆる告示行為を、件数は学校長がしますが、そこを言って、ちょっとお話をさせてくださいっていうにして、小学校1年生にはやわらかい言葉でいいと思うんですね、保護者の方に言わなくてもいいかもしれない。学校長が言われますので、ちょっとそこら辺、来年考えてみたいと思います。学校教育課長、いいですね。

○山下学校教育課長

では支持指導主事と相談しておきます。

私も事前に読むときに、例えば「学習は」というところは、「学習でわかるの」と思いながら、「お勉強を」って言いかえたりしたんですけど、黒岩先生と同じような感想はちょっと思ったところありますので、来年度作成する部分につきましては指導主事とちょっと調整させていただきます。

○安本教育委員

同じく、中学校に行ったんですけど、校長先生のお話の3つのお願いとかぶっていて、聞いてたら、かぶってるのはやばいなと思ってですね、3つのお願いがありますっておっしゃってて、こっちも3つのお願いで2つかぶってたのかな。中身は細かく違いますよ。だけどお願いがかぶってるんで、教育委員会の告示を校長先生にご覧いただいて、内容かぶらないようにしゃべってもらおうとかそういう調整はできないのかなっていう感じがして。

○扇教育長

普通するんです。かぶらないように。それがちょっとうまくいってなかったかもしれないですね。

○山下学校教育課長

6 中学校の校長先生が発言する内容が決まる時期と、多分教育委員会で用意する時期的な問題とあって、ちょっとそのタイム関係が私もどうなってるのかわからないんですけども、結構校長先生、ぎりぎりまで推敲されるんじゃないかなと思うんですね。教育委員会から行くときに幾つのお願いとか入れないほうがいいのかもしれないなと思いながら。どうなのでしょう。

○安本教育委員

かぶっちゃったんでもう最後ごめん1分くださいって言って、1つだけでいいからとちょっとアドリブで話入れてやったんですけど、何か調整ができれば、3つのお願いっていうのは、もうおっしゃる通り、学校現場が言えればいいのかなと思いますね。

子供たちの目がキラキラするような話を言ってあげて、以前あれがあったんですね。確か、ノーベル物理学賞のリチウムイオンのお話とかが、中学であったんで、そういう今話題になってる話題を入れてあげたほうがいいのかなあっていうか、僕の主観です。だから、まず調整を入れて、そう思います。

○黒岩教育委員

私もかぶったらどうしようと思いながら聞いてました。

○安本教育委員

校長もそうですよね。びびりましたね。

○扇教育長

もう1回整えてやりたいと思いますので。

○宮崎教育委員

冒頭に教育長おっしゃった通りですね、告示行為もシンプルでいいと思います。特に話なくですね。結局、誰も聞いてないんです。保護者も早く終われというような感じで見てますんで、シンプルでいいと思います。

○足達教育委員

すみません。もう1つです。マイクで教頭先生が開会しますと言って、校長先生、そして告示という順番かなと思ったんですが、マイクで進行の先生が開会しますと宣言してすぐ、教育委員会の告示が入って、校長先生という順番は、これもいいんですか。

○扇教育長

大体告示行為が先です。

○安本教育員

うちは校長が先にしゃべりましたね。

○宮崎教育委員

中学校は校長が先でしたが、小学校は告示が先でした。

○扇教育長

入学式だけは告示行為が先なんですよ。告示行為っていうのが、だんだん時代とともに薄れてきてですね、もう祝辞みたいなんですよ。だから告示といたら、県立高校だったら県が告示行為を、県教委が来られてなかったら校長がそこを最初言うんですけど、そこをもう1回きちっと。

○宮崎教育委員

校長先生が主役がいいんじゃないかなと思います。

○安本教育委員

最後に、入学式でこれもらってですね、最後にクラスの紹介とかあるんですよ。

これ最初に見たときにちょっと驚いて、そよ風学級が、11 クラスあるんですね。そよ風クラスっていわゆる特別支援学級ですけど。11 人の担任の先生がそこにかかっている、最後紹介されたときに、理科の先生、数学の先生、確か英語の先生もいるんですね。

ちょっと教育上、組織上問題があるんじゃないかなと僕は思ったんですよ。つまり、人的資源が割かれている、主要科目の先生 5 科目の先生が割かれてるっていうこと自体が、ちょっと納得いかなくてですね、それは多分、春日市だけの問題じゃなくても日本国の問題になってると思うんですけど、そこら辺県教委もうちょっと考えて、上ですけどね文科省、そういう動きが、市町村の教育長会議とか、県の教育長会議とかで、上にいってるのかもしれないけど、人的資源の使い方が日本は下手だなとちょっと感じた。

○扇教育長

僕は理想はですね、特別支援、例えば教育大の特別支援教育を専攻して免許を持っている、特化した方々がいらっしゃればそれがいいんでしょうけど、文科省が言ってるのは、教員になって 10 年までに特別支援学級担任を経験すること、と。通常学級でもそれがその能力を発揮できることと、インクルーシブの方向を言ってるんですが、実は特別支援学級が急増したのは平成 26 年、7 年ぐらいからですね、ドーンと増え出したんです。それまで逆に通常学級の中で過ごさせてくださいというのが非常に多くて、それでまたてんやわんやもしておったんですよ。情緒面の子とか入ってきたときは。

さっき言われたように中学校では教科で配置されますので、小学校は教科で入るのはあんまりないですね。例えば中学校はその配置された中で、通常学級と特別支援教育学級の担任を配置していきますので、必ずどこかの教科の先生が入ってくる。1 つは、小学校以前ありましたが、特別支援学級にも 1 クラスに 1 人ずつ配置されますので、教員不足というのも 1 つの要因はそこに来てる。

ただ、個に適正に応じた指導をやらなきゃいけないということ、そして、今県も、私どもも言ってるんですけど、特別支援教育でずっと 9 年間過ごすことは、知的の場合は、その個に応じた指導レベル置いて指導しなきゃいけないので、特に情緒に関しては、早く自分の持ったものをコントロールできる能力を身につけさせて、人数をふやしていったんだんだ通常に早く持ってくる。そうしないと、中学校 3 年まで情緒で行って高校に行ったときは、ここで、社会的な自立の第一歩を踏み謝る。ですので、どうしても間に合わなかった場合中 1 までは情緒に在籍するけども、中学校は基本的に早く自分なりにコントロールできて対応できる能力を、家庭とそういうカウンセラーと、それから医者の方とも相談しながらうまくやって、早く通常に戻そうと。通常で多人数で生活できることを経験して高校に進むのと、経験せずに進むのとじゃ雲泥の差がありますので、そこは中学校の大きな課題として今やってます。

ただ問題はさっき言ったように、中学校は教科担任制ですから必ず教科の先生がザーッと来る。そこで割り振りをしますので、現在では、教員不足の 1 つの大きな壁になっているのは確かです。そこに文科省は 10 年以内に特別支援教育学級の担任を経験させることとなっていて、そして通常の学級担任したときに、そういう特性をお持ちのお子さんもおってもうまくコントロールできる。ノウハウを教員が身につけておけば、特別支援教育学級を持たずにもできる。それを目指してますけど、10 年やそこらでは解決しないだろうと思う。

ただ、今教員不足ですから、講師で役職定年、それから 61 で定年になって再任用を求めている先生方で、特別支援教員にちょっと講師でお願いできませんかということで、復帰してもらってる先生はかなりいらっしゃる状況です。

○安本教育委員

いや、やろうとしてることはわかるんだけど、うまくいったんのかなと。11 クラスで結果が出るのかな。

○扇教育長

8 名超えたら、クラス増なんですね。

○宮崎教育委員

その定員をちょっと増やすとかいうのは。

○扇教育長

そこはですね、小学校が 35 人まで通常学級っていうのと一緒に、規則が何人までと決まっている。

ただ、春日市は、こども支援部の発達支援室に、特別支援教育に長けた指導主幹を 1 名配置して、元小学校の校長から、今年からかな。学校教育課にも、特別支援教育に長けた指導主幹を置いています。そういう指導できる先生を置いて、平常の授業見てもらってアドバイスしていただきますので、うちはかなりそういう面では特別支援教育学級のレベルが少しずつ上がっているのは間違いない。

そして、モデル校も 2 つ作ってますので、4 時以降はその担任の先生に相談に行っているようにしてるんですよ、特別支援学級の経験が浅い先生方が。そういうシステムを作っている。いずれ春日市は特別支援教育はすごいなって言われるようになりたいなと思っています。

○安本教育委員

通常学級のクラスを二、三年後超えそうな勢いで増えていってるから、ちょっとって感じちゃったんですね。

○扇教育長

粕屋の方の小学校で 20 何学級っていう学校もあります。通常学級より多い。

○安本教育委員

僕は逆にそれが普通だよっていう社会がなんか怖いと思うんですよ。

○扇教育長

本当はそこがですね、一緒になって学級の定数が 15 名ぐらいで、これはヨーロッパなんかの諸先進国と同じ。その中でバラバラの内容を学習している。それが今目標とされてる。

○安本教育委員

そうなれば一番いいんでしょうけど、先生の数でしょうか。あと専門性ですよ。ちょっと感じました。

○扇教育長

審査会の中でも、もう通常に戻してもいいんじゃないでしょうかっていう判定出るんですけども、最終的に文科省が言うには、保護者の同意のもと、ご本人さんと戻ってきたとき、保護者はどうしても手厚い指導を受けたいということで、中学校もというのが多いですね。そこは早くレベルアップして、通常に戻られる道を早く探ったらいかな。

○安本教育委員

ありがとうございました。

○扇教育長

それでは次に事務局報告です。

(3) 事務局

○武末教育部長

事務局からは特にありません。

○扇教育長

それでは調整事項に入ります。

【第3 調整事項】

- (1) 5月定例教育委員会議の日程について
令和7年5月23日（金） 午前9時 決定
- (2) 6月教育委員会議の日程について
令和7年6月27日（金） 午前9時 決定
- (3) 5月教育委員懇談会の日程について
令和7年5月23日（金） 午前10時 決定
- (4) 6月教育委員懇談会の日程について
令和7年6月27日（金） 午前10時 決定

○萩原地域教育課長

春日市小中学校PTA連絡協議会総会の日程について（確認）
令和7年6月20日（金） 午後6時

以上で本日の教育委員会はこれにて閉会いたします。

午前9時36分閉会